

# 国土交通省における グリーンイノベーション、エネルギー対策

---

平成24年7月5日

国土交通大臣 羽田 雄一郎

- ◎ 超小型モビリティは、交通の省エネルギー化に資するとともに、高齢者を含むあらゆる世代に新たな地域の手軽な足を提供し生活・移動の質の向上をもたらす、少子高齢化時代の「新たなカテゴリー」の乗り物。
- ◎ 今後、国内外で成功事例を創出しつつ、関連制度やこれを活用したまちづくりの検討を進める。
- ◎ 少子高齢化が世界各国に到来する時代に向け、課題先進国たる日本が、超小型モビリティなど「創造的イノベーション」によるソリューションを確立・先導。未来の国際競争力の源泉とすべき。

## 人口減少・少子高齢化時代に向けた創造的イノベーションの創出



### 「超小型モビリティ」

自動車よりコンパクトで、地域の手軽な移動の足となる1人～2人乗り程度の車両（エネルギー消費量は、通常の自動車に比べ1/6（電気自動車の1/2）程度）

### 超小型モビリティの導入により期待される効果

- ① 新たなカテゴリーの乗り物として位置づけ**需要を創出**
- ② 通常の自動車より少ないエネルギーで**省エネ・低炭素化**に寄与
- ③ **子育て世代や高齢者の新しい移動手段**として活用
- ④ 道の狭い都市部での**観光・地域振興**にも活躍

## 日本発ならではの省エネ・安全性の実現と世界標準先取り

### 世界市場の見通し①

エネルギー制約、保有台数の増加に伴い、**省エネルギーのための規制強化等が急速に進捗。**

従来存在しなかった、乗用車より更にコンパクトな車両の市場が爆発的に伸長、電気自動車の主要市場として急速に成長するとの民間予測も。

### 世界市場の見通し②

中国や欧州など世界各国で人口減少・少子高齢社会が**まもなく到来。**

高齢者にとって取り回しのしやすく、日本車ならではの品質・安全性の高い超小型モビリティの需要が、新興国で急速に高まる可能性。

「課題先進国」たる日本が、ソリューションを先導して確立。  
豊かな未来社会を創造。国際競争力の源泉に。

## 今後の施策展開

- 公道走行をより簡便な手続きで可能とする**新たな認定制度を創設**（平成24年度中）。車両区分等関連制度の整備やまちづくりに関する検討を加速。
- 国内外での成功事例の**先行積上げ**、**国際標準化**、我が国の技術優位性が生きるような市場環境（制度・政策等）の整備等により、世界市場における事実上の標準を獲得。

# 海洋開発プロジェクト

グリーンイノベーションによる新たな成長産業創出に向けた海洋の開発・利用・保全の促進

- 海洋国家たる我が国の存立基盤であり、資源の宝庫である「海洋」は、政府を挙げて取り組んでいく人類全体のフロンティア。新興国のエネルギー需要拡大等により、世界の海洋開発市場が急成長中。
- グリーンイノベーションによる新たな成長産業の創出に向け、海洋権益を保全しつつ海洋開発分野における我が国産業界のビジネス拡大を図るとともに、世界の成長を取り込む。
- 具体的には、洋上風力発電の普及拡大、世界最先端の海洋環境技術開発、海洋産業の戦略的育成等により、2.5兆円の新市場の創出を目指す。

## 海洋開発分野における我が国産業界のビジネス拡大

### 洋上風力発電の普及拡大 (海洋再生可能エネルギー)



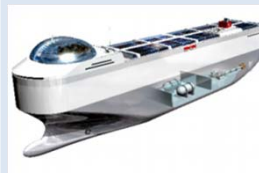
浮体式洋上風力発電



洋上大型風車作業船

- ・ **世界初の浮体式洋上ウインドファームの実証** (福島県沖)、国際標準化の先導
- ・ 「実証フィールド」の整備
- ・ 円滑な**海域利用調整**のための環境整備
- ・ 安全・効率的な設置・メンテナンスのための**洋上大型風車作業船**の実用化支援

### 世界最先端の 海洋環境技術開発



天然ガス燃料船



気泡流  
船体抵抗低減

- ・ **世界初の大型外航天然ガス燃料船**等の早期実用化に向けた総合的な支援
- ・ 船舶の**革新的省エネ技術**の普及・促進支援

### 将来のEEZ開発を担う 海洋産業の戦略的育成



洋上LNGプラント



洋上中継基地

- ・ クリーンエネルギーである天然ガス等**海洋資源開発プロジェクトへの参画支援**
- ・ **フロンティア技術**(海底熱水鉱床開発システム等)の開発・実用化支援等

**海洋開発を支える環境整備** (活動拠点整備、海上保安体制の強化、海洋調査の推進、海洋情報の一元化、低潮線の保全、離島振興 等)

**2020年までに2.5兆円の海洋開発関連新市場を創出し、我が国の成長に貢献**